まえがき
1963年以降高冷地かんらんの品種検討をつづけ2〜3の優良品種を選抜したが、輸送で葉という性格から品種の輸送能力と日持ちをみるため本試験を行なったので、結果の概要を報告する。

試験方法
供試品種はマサゴA号、天拝、早生秋宝、夏葉、ハイクロップ2号で、標高800mの仏田高原で栽培を行なった。荷姿は20kg人のスカジ箱を利用し、一般に行なっている形体と同様に荷造りをした。試験区は収穫して当日輸送する慣行区と、前日収穫して翌日輸送の前日収穫区と、切口に石灰を塗布した石灰区と、雨の日時を想定して、収穫後2日間に浸した水浸区の4区を設けた。輸送路は8月23日に久里町仏田高原より瀬ノ木を通り、竹田市を経て大分市まで111kmをトラック輸送した。

試験成績及び考察
荷姿、各品種とも球外葉の3〜4葉や傷んだが、商品価値には支障をきたすほどではなかった。なかでも傷の少ないものはハイクロップ2号であった。

腐敗性、各品種とも輸送初日の腐敗はみられず、3〜4日目ころから切口より腐敗したものが多かった。品種間ではハイクロップ2号が少なくついて夏葉、早生秋宝、マサゴA号の順であった。処理区別では前日収穫区が慣行区に比し、各品種とも腐敗が少なかった。切口の石灰処理区は腐敗防止の効果が認められなかった。水浸区はハイクロップ2号が少なかった。

第二表 水分減少率（慣行区）

<table>
<thead>
<tr>
<th>品種</th>
<th>月日</th>
<th>24</th>
<th>25</th>
<th>26</th>
<th>27</th>
<th>28</th>
<th>29</th>
<th>30</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>マサゴA号</td>
<td>0.7</td>
<td>2.3</td>
<td>5.1</td>
<td>3.5</td>
<td>4.0</td>
<td>5.5</td>
<td>6.2</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>天拝</td>
<td>2.3</td>
<td>4.6</td>
<td>6.1</td>
<td>7.6</td>
<td>9.2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>早生秋宝</td>
<td>5.1</td>
<td>7.0</td>
<td>9.0</td>
<td>9.3</td>
<td>10.2</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>夏葉</td>
<td>3.8</td>
<td>4.0</td>
<td>7.1</td>
<td>8.1</td>
<td>9.0</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ハイクロップ2号</td>
<td>2.6</td>
<td>4.9</td>
<td>7.4</td>
<td>8.3</td>
<td>10.1</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

日持ち（水分減少率）、各品種とも一週間後に10%程度の水分減少を示し、11日に1〜2%の水分減少を示した。品種間ではマサゴA号が最も少なく、天拝、夏葉の順に少なかった。

むすび
各品種とも商品性に支障をきたす傷みでなく、輸送当初の腐敗は少ないのでさしつかえないものと思われる。なかでもハイクロップ2号は荷姿と腐敗性にすぐれ、マサゴA号は日持ち（水分減少率）においてすぐれていると思われる。